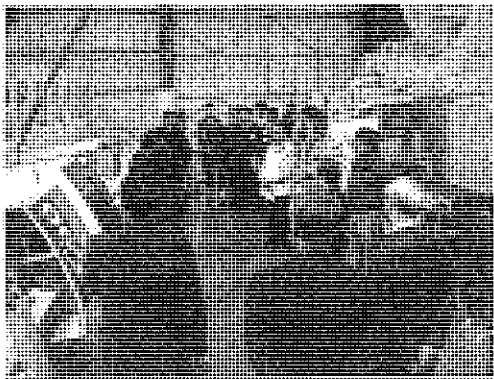


前回フェアの様相



「2×4&梱包革新フェア」が19~21日の3日間、神戸のヴァイニツヒショールームで開催される。目玉となるのは、ランバーやパネル加工をはじめ、釘打ちや墨付け、2×4ラインのアセンブリなどを網羅するため、ミカエル・ヴァイニツヒ・ジャパン（神戸市）、フソー（桜井市）、マックス（東京都）、サンキ（奈良県北葛城郡）の4社が連携して2×4工場や梱包製材向けに総合的な合理化提案を図る点。世界的な同時不況が押し寄せるなか、生産工場が生き残りを図るための合理化やコスト削減についての具体的な提案を行う。展示会では実演加工を行うのはもちろん、2×4や梱包材工場の現状と問題点を明らかにし、改善を提案するセミナーも企画。また、ビデオでの紹介を含め、様々な導入事例、成功事例なども取り上げる。

# 4社連携で総合的な合理化提案

ヴァイニツヒ、サンキ、マックス、フソー

## ヴァイニツヒ 2×4&梱包革新フェア(19~21日)

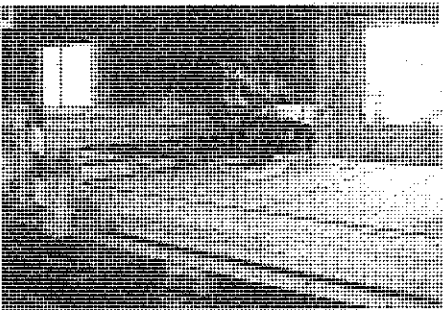
### ヴァイニツヒ

「ヴァイニツヒ」は、2×4や梱包工場向けに、ロスカットソーとして日本全国で70台以上が稼働するオペティカットを提案する。オペティカットの最大の特徴は高い歩留まり生産。2×4メーカーの「コストダウンを図りたい」「稼働率を上げたいが上がらない」「人員増でしか増産に処できない」「ヒューマンエラーに悩んでいる」という。また同社では新製品「ランニングソー」の導入も計画。このマシンは、ボード材の切断及び木材の縦挽き・横挽き・角度切り・斜め挽きなど、様々な切断加工が可能。従来のパネラーやその他の機械に比べて切断速度、切断精度の両面で優れ、材料の取り回しも容易という。

### 効率と利益向上をサポート

### サンキ

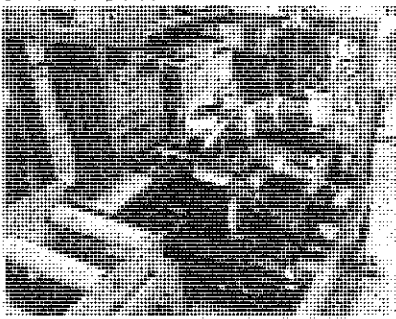
サンキが2×4向けに提案するのが同社の得意とする墨付けシステム。同社は墨付けシステムに加え、2×4パネル自動生産ラインなどのパイオニアともいえ、合板などの面材と2×4材を自動で釘打ちし連続して開口部を自動加工、といったラインも供給している。ただ、今回は簡易型



小さなトラブル発生が工場全体を止めるというリスクを回避できるという。当然、墨付けはCADとリンクしており、組み立て情報や即時印字させる。また、梱包工場向けには釘打ちの自動生産化を提案する予定で、ロボットを利用した釘打ち作業の無人化について映像を含めて成功事例を紹介するという。

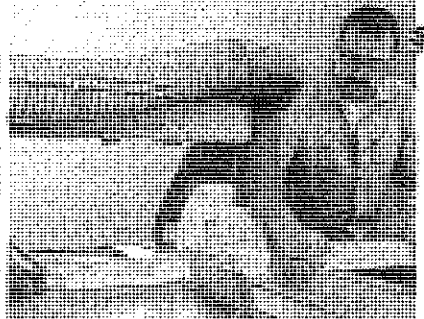
### マックス

マックスでは、「マックス・合せ柱釘打ち機」を提案する。同作業はまだ機械化の遅れている部分で、人手による作業化しており、今回の展示会では新たなニーズへの対応を提案する。また、マックスは、マックス・合せ柱釘打ち機は、マックス・マシンネイルスタイル（合せ柱・マックスの2種類の異なる釘打ちを簡単なセット替えで）へ注目点が変化している。今回の展示会では新たなニーズへの対応を提案する。



### フソー

フソーでは「縦のカットから平面カット」をテーマにスライドソーを提案。スライドソーで0.1mmの寸法精度で、高価なCNCでしかできなかった加工を、安価な設備投資でより高速に行うことが可能になるという。なお、最大切断高さは標準機で179mmまで可能で、最大カット長さはオペティカットで4900mmまで可。



縦のカットから平面カットへ

0.1mmまで可。